

生産性向上に向けての新たな取り組み

～新たな学びから施設課題へのアプローチについて～

施設概要

- 施設名

社会福祉法人 麗寿会

ふれあいの麗寿

- 住所

神奈川県茅ヶ崎市南湖1-6-15

- 施設概要

特別養護老人ホーム（2F：従来型49床、3～5F：ユニット型51床） 100床

短期入所生活介護 10床（ユニット型）

居宅介護支援



平成28年10月開設

開所から9年目の特養です☺

プロジェクトの概要

- 応募した理由

サービスの質の向上を目指す中で、ご入居者の重度化もあり、直接的介助時間が増加している。

⇒ その時間の確保や捻出に課題を抱えていた

チームとして業務改善（ムリ・ムダ・ムラの洗い出し）をスタートさせたところで、今回の伴走支援の情報を得る

⇒ よい効果的な結果につながることを期待して申請した。

- プロジェクトメンバーの紹介

介護課長、ユニットリーダー、施設長

- 当施設の特徴

2F 従来型特養 、 3～5F ユニット型特養

異なるサービス種別が合築されており、それぞれの特性に合わせたケアの実践を目指しています

研修時に想定した施設の課題

～ 当施設の環境・課題点 ～

- * ナースコールやセンサー類の呼び出し音が複数飛び交っており、**生活空間での不快音**となっている。
- * 記録において手書きと入力が混在しており、一部**重複しておりムダな時間**が生じている。
- * 同じ作業も職員によるやり方の違いが発生しており、**職員により作業時間に差が発生**している。
- * センサーの数やナースコールが多く、**都度訪室による確認作業にて時間を取られている**。
- * 業務改善、テクノロジーの活用についての必要性について**全員共有の考え方まで至っていない**。
- * **職員の身体的負担の軽減**に向けて、安心・安全な移乗介助の実施。



※ 当施設に必要なこと ※

- ご入居者の心地良い生活空間の創出
- 不必要な訪室の削減
- エビデンスに基づくケアの提案・実施
- 記録の効率化、簡素化
- 職員間の即時同報性のある情報交換・共有
- 職員の精神的負担の軽減と身体的負担の軽減への取り組み
- 業務改善および生産性向上についての知識や実践の共有

実際の施設の課題と対応策

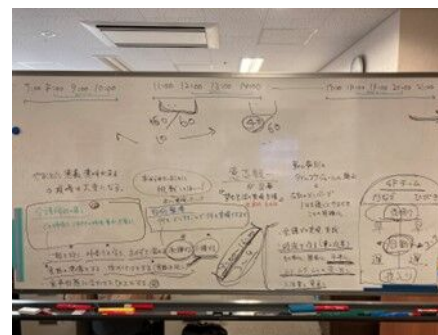
- 実際の施設の課題、因果関係図

介護課内で職員の意見を回収

思い付くものを先ずは洗い出した

- 委員会活動の様子など

現場の声から業務改善に取り組み、機器のデモや勉強・研修会を開催



ムリと感じる・・・

直接介助

- ・水様便時の排泄交換
- ・時間内での排泄交換
- ・移乗介助
- ・夜間帯の相手が休憩時のコール、センサー反応に精神的に辛い

間接介助

- ・居室掃除
- ・季節ごとのフロア飾り付け
- ・夜勤前の雑務
- ・休憩時間を使って物品補充をする
- ・休み、夜勤明けでの出勤

間接介助

- ・ラクーナ作り
- ・食事用エプロン
- ・ご利用者エプロン洗い
- ・おしぼりの袋
- ・居室トイレのゴミ箱
- ・6時前に起床した方の記録
- ・コピー機に不具合があり印刷するのに時間がかかる
- ・多職種へのご機嫌伺い
- ・配薬チェック
- ・朝の申し送り
- ・事故報告書の印刷
- ・物品補充
- ・お風呂掃除
- ・記録の重複



導入する機器と、機器を使用したときに想定される効果

解決すべき課題	課題を解決する機器	選定理由	導入時に必要な工夫
情報、データに基づくケアの提供	積水化学工業 ANSIEL (見守りセンサー)	在床確認と動き出しを捉えることができ、生体情報と睡眠情報を収集できることでより効果的なケア実践につなげられる	多機能や同等品も多い中から自施設に求める機能と先の展開から慎重な選択
ご入居者の安全確保と職員の精神的不安の軽減	ANSIEL (見守りカメラ)	他者対応中におけるご入居者の安全確認や対応優先順位の判断基準として運用可能である	上記内容と合わせて、コンプライアンス上の取扱いルールの設定の実施
必要な情報の即時共有と協力体制の構築	SHOKS (インカム機器)	内線使用の中で、1対1のやりとりからの伝言・周知を、一括・一度で行いたいケアや作業の手を止めずに情報共有が可能である	基本的な運用と取扱い方法の習得。各セクション中心となる職員から全体へ周知していく
自立支援の継続と職員の腰痛予防	Hug-T1 (移乗支援機器)	ご本人意向・意欲の立ちたい、トイレに座りたいを職員が抱えずとも実施できる	デモ実証にて職員実体験機器対象者の選定を行う
いつでもどこでも記録可能な環境整備	iPhone iPad 等 デバイスの活用	端末機器を必要箇所を用意することで二重転記を不要とし、入力記録も直ぐに確認できる環境を整えられる	現状把握の実施から改善可能点を検討し、必要箇所と数を共有した

今後の課題

- 導入時の工夫をどのように実施するか、今後どうしていきたいかなど

導入段階にて段階的導入を目指し、各機器についてメーカー担当者に繰返し問い合わせること、職員への説明・研修を実施した上で、通常運営の中でポイントを絞りながら一つずつ運用を開始しています。

多少の手間や重複は発生しますが、職員の安心・信頼感を得ることでの定着・通常化を目指しています。

なお、引続きの課題として、『見守り機器等を安全かつ有効に活用するため』に下記について施設として検討を続けていきたいと思っています。

各項目においては、導入機器の効果測定・検証に基づくものとして考え、

- * 【安全な環境とケアの質の確保】に向けて、適切な設定構築の実施。
- * 画面上での判断体制を整え、夜間巡視の削減等、【夜勤職員の負担軽減及び機器への信頼度向上】。
- * 各機器使用時における不具合・故障等の【緊急時の連絡・対応体制の整備強化】。
- * 導入機器の安定運用に向けて【日常および定期的点検体制の構築】。
- * 導入機器を安心・安全に【全職員が使用・活用できるよう職員説明・研修会の継続開催】。